

瑞二だより

発行
江戸川区立
瑞江第二中学校
校長 滝澤 清豪
発行日5月23日
東京都江戸川区
瑞江4-54-1

朝礼
(5月21日)

おはようございます。

今日は先週18日(土)の運動会明けの登校ですが、まだ興奮冷めやらぬ様子のことと思います。運動会は大成功のもとに無事終了しました。皆さん一人ひとりが精一杯頑張る姿は、クラスのムードを盛り上げ、保護者や地域の方々に感動を与えてくれました。特に3年生は今年度は4クラスから3クラスへと変わり、学級減ではありますが、逆に1クラスの人数が昨年度よりプラス10名増えた事で、クラスの団結力は強くなったのではないのでしょうか。この調子で「集団の力」をこれからも最上級生として後輩たちに見せてほしいと思います。

「集団の力」と言えば、昔前までは「集団」という言葉は「没個性」の代表的なものとして、個人を尊重する時代の波に

飲まれ、「集団」という言葉自体が悪者のような扱いを受ける社会風潮もあったと思います。戦後国際社会に復帰した日本にとつて、オリンピックに国の威信をかけて出場する選手たちの重圧は、私たち国民が考える以上のものがあり、緊張とプレッシャーで実力通りの力が発揮出来なかった選手もたくさんいたようです。国という一番大きな「集団」を背負っているわけですから、それは、それは大変だったことでしょう。選手たちにあまり過度な期待をしてはいけません。

ところで、新聞のテレビ欄を見ると、ほぼ毎日ワイドショーの番組内容には次のような文が掲載されます。「大谷選手、今日のゲームでホームラン第13号」と。「えっ、大谷さん、またホームラン打ったのか!」「いいえ、最後に?マークが付いています。また、今日もホームランを期待している日本国民と何とか番組欄を読んでほしい制作会社の思い入れが微妙にスクランブルする状況が、狭い行間に人間の錯覚を上手く活用した工夫が表れています。大谷選手には日本人々を喜ばせる大活躍を期待してまいりますね。

世の中には、期待しているアスリートたちのインタビューにも苦言を呈したくなる人がいます。巷では、オリンピックなど世界大会の壮行会やテレビ番組のアスリートへのインタビューでよく聞く言葉があります。インタビューアスリートたちに大会へ臨む意気込みを聞くと「日本の皆さんへ一言お願いします。」「はい、明日は自分自身を楽しんでこようと思います。」・・・ものものを申したくなる人は「オイオイ、国民がみんな応援して楽しみにしているのに、自分は楽しんできません。は無いだろ!」言いたい気持ちは分かる

のですが、大会に出るのは本人なので、アスリート本人が一番、プレッシャーを感じず実力を発揮できる方がいいのです。では、皆さんはアスリートです。カメラの向こうに何千万人という人が自分の言葉に注目してくれています。ここで気の利いた言葉を言わないと国民は納得してくれません。皆さんなら何という言葉を言いますか?つまり、自分自身がリラックスしたい。国民も応援し続けたい。そんな言葉を作ってみましょう。

私の答えです。インタビュー「滝澤選手、日本の皆さんへ一言お願いします。」お願います。「滝澤選手、はい、明日はプレッシャーを楽しんできます!」

どうですかこの言葉は?私がアスリートとして将来インタビューに答える機会はないでしょうが、この言い方ならば、国民の多くが納得するかも知れません。ただ、言う方にもある程度の余裕がないと言えないセリフですね。私が考えるプレッシャーから逃れることができる

方法が一つあります。プレッシャーは孤独な環境の方が感じやすいと言われます。例えば、草食動物が肉食動物に食べられてしまうことは自然の摂理です。草食動物にとつて見れば突然なプレッシャーです。何しろ命が掛かっているのですから。このプレッシャーを乗り越えて身を守るためには、一瞬たりとも肉食動物から目を離してはいけません。そのため、多くの目で敵である肉食動物を見つけて出すことです。そして逃げることです。目は一つでも多い方が発見しやすくなります。つまり、集団で組織での難敵からプレッシャーから勝利すれば良いのです。1匹より2匹、3匹の方が良い。10人より20人、30人の方が団結して力が強くなります。そうです。「集団の力」は人が同じ目的で集まったならば、その目標に向かって想像を超える力を発揮することが出来るのです。

私の先輩教員で「受験は団体競技・集団行動である」と言った先生がいました。

「受験期の大きなプレッシャーに打ち勝つためには、クラスのムード・雰囲気が大切であり、同じ悩みをもった集団だからこそ集まる事、そのプレッシャーから離れる事ができる。進路が早く決まった者はこれからの首にエールを贈り、精神的な支えとなり、その役割を十分に担うことでプレッシャーを最小限にする力がある。このように受験は集団行動であると言える。人間は古くから助け合い、労りあつて集団という社会を形成してきて発展・成長してきた。15歳で経験する最大の関門である受験においても同様のことと言えるのである。」

- 過去に遡ってみましょう。
- 平成30年度6月2日 ○晴れ実施
 - 令和元年度6月1日 ○晴れ実施
 - 令和2年度5月23日 △コロナで中止
 - 令和3年度5月15日 △コロナで学年別で実施
 - ①校時1年生と6組
 - ③校時2年生
 - ⑤校時3年生
 - 令和4年度5月21日 ▲全校 途中からゲリラ豪雨で中断・中止
 - ▲5月24日 午後団体種目のみ実施
 - 令和5年度5月20日 ▲朝まで雨 午後からフィールド内のみ実施
 - ▲5月23日 早朝雨中止
 - ▲5月25日 午前残り実施
 - 令和6年度5月18日 ◎晴天実施
- というわけで、今年度の運動会は5年ぶりのフル開催となりました。雨がつきものの瑞二の運動会でしたが、やっと払拭出来たのではないのでしょうか?
- 今年度は生徒用デントをPTAが購入してくださり、生徒たちの笑顔がたくさん溢れ、多くの生徒が楽しんで運動会でした。ご協力ありがとうございました。
- 校長 滝澤 清豪

第59回運動会
(5月18日)
5年ぶりのフル開催